

風にのって、羽ばたく。

[2022年・新春]



医療法人 仁木会
広報誌 Vol.33

Take Free.

ご自由にお持ちください

そよ風のてがみ

特集

新型コロナ対策と

さまざまな取り組み

二〇二二年巻頭言

職員あいさつ

新入職員紹介

かんたんレシピ

「鶏むね肉の甘酒チリソース」



● 外来診療のご案内

- ・ 受付時間／8:30～11:30、13:00～16:30
※初めての方は待ち時間解消のため、お電話でご予約ください。
- ・ 診療時間／9:00～12:00、13:00～17:00
※ストレスケア外来・ストレスカウンセリングは、ご予約の上ご来院ください。
- ・ 休 診 日／土・日・祝日
※再来急患の場合は、その限りではありません。

● 診療費のお取扱いについて

[窓口でのお取扱い時間]

- ・ 平 日／ 9:00～17:00
※土・日・祝日のお取扱いはありません。

[口座振替]

ご指定の口座より自動振替えによる、入院費・日用品代のお支払いができるサービスを行っております。定期的に来院するのが大変な方、遠方からお越しの方等、大変便利なサービスとなっておりますので、ぜひご利用ください。

[クレジット・クイックペイ]

入院費・外来診察料・カウンセリング料のお支払いが可能です。一括払いのみとなります。分割払い・リボ払いはお取り扱いしておりません。



再来予約専用

TEL.090-1779-5326
TEL.096-383-7810

電話予約受付時間
(平日のみ)
8:30～12:00
13:00～17:00

● 保険証の確認について

- ・ 外来／診察毎時 ・ 入院／月1回
※窓口での提示をお願いします。

● お問い合わせについて

初めての方…………… TEL.096-384-3111
一般外来…………… TEL.096-383-7810
(診察予約・変更・キャンセル) TEL.090-1779-5326
ストレスケア外来・カウンセリング…… TEL.096-383-4679
(診察予約・変更・キャンセル)
デイケアに関すること…………… TEL.096-384-3151

<医療機関・地域包括支援センター・介護施設のご担当者様へ>
各種お問合せは地域連携室で対応させていただきます。

基本理念

医療法人仁木会は、
患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。
患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、
家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。



医療法人 仁木会は
ロアッソ熊本を
応援しています。



医療法人 仁木会
ニキ ハーディーホスピタル
[精神科・神経科・神経内科]
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目6-100
TEL.096-384-3111



医療法人 仁木会
訪問看護ステーション クレイン
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目4番74号
TEL.096-234-7738
FAX.096-234-7746



医療法人 仁木会
相談支援事業所 アウル
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目4番74号
TEL.096-234-7756
FAX.096-234-7746



Staff Greeting

“新型コロナウイルス流行、2年目を迎え”

新型コロナウイルスは2019年12月に中国・武漢で発生し、日本でも2020年1月に国内で初確認され、それ以降2021年10月現在でこれまで5回の大きな流行を繰り返しています。その波は繰り返す度に大きくなり、ウイルスの変異・感染発生者の急増に伴い、日常生活様式の変容を求められ、新型コロナウイルスを常に注視した診療・療養システムの構築を模索し続けているところです。これまでの約2年間で治療薬の開発・運用が少しずつ始まり、ワクチンについては熊本県でも接種率70%を超えています。当院でも本年3月より職員・職員家族・入院患者・外来患者への新型コロナウイルスワクチンの接種を始めています。ワクチン接種への理解も深まり、職員・入院患者様については、98%以上の接種率で推移しています。

院内での新型コロナウイルス感染症については、2021年4月末に1名の新型コロナウイルス罹患の患者様を確認しました。陽性確認の当夜より理事長はじめ、各部署の責任者が参集し、感

染対策本部を立ち上げました。当院での発生は初めてのことで不安や戸惑いがありましたが、現場となったフロアとの報告体制や情報共有、ゾーニング、動線管理、勤務管理などそれぞれが知恵を出し合い、工夫を重ね、院内ワンチームとなって濃厚接触者の観察期間までを乗り越え、感染拡大に至ることはありませんでした。

2021年10月現在、1日最多317名の新規発症を確認した大きな第5波を越え、国内・県内での新規発生数は落ち着いているところですが、今後も安心して通常の精神科医療を提供出来るように、質の高い水際対策を続け、感染症を持ち込まないように責任を持って公私共に行動していこうと考えています。



1病棟ヘッド／看護師
森田 晋介

“コロナ禍における医療機関の在り方”

コロナ禍の状況で医療連携や相談支援の業務にあたるなかで、多くの矛盾や葛藤に直面してきました。医療機関の責務と連携は如何にあるべきかという命題を突きつけられたように感じています。令和3年10月末時点において、感染者は急激な減少傾向に転じ、ウィズコロナからウィズアウトコロナに変わりつつあります。多様なニーズに能動的に対応し、地域包括ケアの一端を担うとの本懐を遂げるために、意識や機能も大きく変容することが必要と痛感しています。

地域連携部・訪問看護ステーションクレイン・相談支援事業所アウルは、患者様・利用者様のサポートを一層充実させるとともに、関係機関との信頼関係の再構築にしっかりと取り組んで参りたいと思います。



地域連携部長／
相談支援事業所アウル管理者
片山 淳一

コロナ禍でのトラウマ治療

コロナ禍での二〇二二年の災害対応として、新型コロナウイルスでの心の問題も合わせて講演活動を行っている。熊本県子ども未来課での講演会を前に、子どもに対応している人達に、アンケートを行った。感染対策をしながら、子どもを見る不安や、環境的な問題、家庭の問題が子どもに及ぼす影響、集団での心理的な問題、発達障害を持つ子どもの災害やコロナでの反応と対応、など多岐に渡り困難が発生していた。マスク生活が社会生活の常識になり、一年以上が経過した。生活スタイルが大きく変化し、それに伴う心の問題がみられるようになった。幼児にとって、マスク姿の大人は普通の光景になり、突然マスクを外した大人の顔を見て、子どもは泣き出す。大人の方も困惑し、ショックを隠せない。子どもに対応する先生達は、マスクで子どもの感情が読み取りにくいので、個別対応に困難を要している。また、大学に進学した子ども達は、遠隔授業が日常になり、大学で講義を受けても同級生との交流は希薄になってしまった。人前でマスクを外し、素顔を曝すのが怖いという人も出てきており、人との繋がりに問題が出てきている。

トラウマ治療において、過去に話題に挙げたが、ポー

ジエスのポリベールガル理論に基づく、神経生理学を基盤とした治療が世界では一般化している。クライエントの、交感神経の興奮状態をチェックし、副交感神経の腹側迷走神経（複合体）は上手く働いているのか、背側迷走神経（複合体）が活性化されて不動化や解離を起していないかを判断しながら、状態に合った治療を行う。トラウマを受けると、通常覚醒の幅が狭くなり、交感神経が興奮して過剰覚醒（闘争・逃走反応）が継続すると、まるで躁状態のような様相を呈する。災害やトラウマを背景に、過剰覚醒を保つために、（背側迷走神経に移行するのを防ぐために、不適切ではあるが適応的な反応として交感神経の活性化が継続）注意も散漫し、多動となる。成人のA D H Dと誤診されてしまう。一方で過小覚醒の状態に留まっている人では、うつ病のように見えてしまう。腹側・背側迷走神経の状態を知らずに、安易にリラックスを与えようとすると、フリーズして固まったり、解離、パニックを起したりする。背側迷走神経の活性化が続くと、冬眠モードのような状態に陥り、脈拍や血圧が低下して、ベッドから起きられなくなってしまう。そのシステムを知らない医師

は、安易に昇圧剤を投与してしまう。実際に何名ものクライエントが、血圧の薬を複数投与され、コントロール不能状態で、県外から私のところに治療に来た。また、うつ病だと判断され、機械的に抗うつ剤が投与され、通常覚醒のレンジが狭いために、一気に過剰覚醒に変化したり、過小覚醒と過剰覚醒の間を行き来したりするため、双極性感情障害と誤診される人もいる。そんな中、WHOのICD-11が発表され、複雑性PTSDが正式に病名追加され、診断基準も示された。複雑性PTSDは、虐待や災害などの長期に継続するトラウマにより引き起こされる病態であり、それこそ投薬のみで太刀打ちできるレベルではなく、子どもの成長の過程での受傷は、発達障害の様相も示す。迅速で適切な診断の元、神経生理学的な対応をしながら、専門的なEMDRやSE（ソマティックエクスペリエンシング）、ブレインジム、TFIT、ブレインスポッティング、BCITなどを利用しながら治療を進める必要がある。現在、私のトラウマ外来は、災害を含め様々なトラウマにより苦しんでいる子ども達が集まって来て、思春期外来のようになつてきている。

Chairperson Greeting

理事長
仁木 啓介



皆様の御協力により、2021年10月に地域精神保健福祉において、熊本県知事より熊本県精神保健福祉事業功労者表彰を受けました。心より感謝いたします。



今後も各自が医療者としての自覚を持ち、標準予防策の
遵守を職員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます！

新型コロナ対策と さまざまな取り組み

特集



当院では新型コロナワクチン接種を
2021年3月18日より、職員を皮切りに
病院関係者、通院・入院患者様に順次
行っておりまひました。12月末時点で延
べ約1300名への接種を実施しました。
ワクチン接種来院時には病院入口で
検温などのバイタルチェックを行い、
接種の際には、医師・看護師がアナ
フィラキシーショックに備え救急カート

や心電図モニターなどを準備した万
全の態勢で臨みまひました。接種後の待
機時間は30分とし、観察を行いまひ
ました。また、7月と8月の土曜日には、当
院会議室を会場とした130名の集団
接種を医師5名、看護師11名、事務ス
タッフ13名で実施しました。いづれの
接種時も重篤な副反応なく無事終え
ることができました。



ワクチン集団接種会場

院内衣類販売会



販売会当日は感染予防対策もバッチリ！

当院会議室にて衣類販売会を開催いたしました。新型コロナウ
イルス感染拡大により外出外泊が制限され、催し物等も中止さ
れる中で、少しでも入院患者様に笑顔になっていただきたいと
思ひ、十分な感染予防対策を講じた上で業者の方にお越しい
ただき無事開催することができました。同行している病棟スタッ
フにコーディネートをお願いしたり、鏡の前で合わせられたり
する姿はとてもキラキラして見えました。患者様からも「行動制
限がある中で、自分で選んで買ひ物ができて気分転換になっ
たよ」というお言葉と笑顔をいただき、コロナ禍の中、このよう
な機会が例年以上に必要だと実感しました。今後も感染予防対策
を行ひつつ、患者様に喜んでいただけるような催し物を少し
でも多く開催できることをスタッフ一同願っております。（事務課）

かんたんレシピ



鶏むね肉の甘酒チリソース

材料 (2人分)	鶏むね肉……………1枚	A	トマトケチャップ……大さじ4
	塩、こしょう…………少々		スイートチリソース…大さじ1
	片栗粉……………大さじ2		甘酒……………大さじ4
	油……………大さじ1		濃口醤油……………小さじ1
	長葱……………約10cm		レタス、トマト(飾り用)

- 作り方**
- ①鶏むね肉を一口大のそぎ切りにし、塩コショウをふり、片栗粉をまぶす。
 - ②長葱はみじん切りにし、[A]は合わせておく。
 - ③フライパンに油を熱し、①を入れ両面を焼き取り出す。
 - ④余分な油を拭き取り、刻んだ長葱を炒める。
 - ⑤合わせた[A]、鶏肉を入れ、煮からめる。
 - ⑥レタス、トマトと共に皿に盛りつける。

POINT

・鶏むね肉は脂質が少なく蛋白質を多く含む食材です。エネルギーを抑えたい方にもお勧めです。蛋白質は筋肉や骨、内臓、血液の材料となり、髪の毛や肌にも良く積極的に摂りたい栄養素です。抗疲労成分も含まれているので、疲れを感じている方にもお勧めです。

・甘酒の原料である米麹には肌の健康維持をサポートする成分が含まれます。又、食物繊維が豊富に含まれ、便秘予防にも効果的！オリゴ糖も含まれるため腸内環境を整える作用もあります。さらにビタミンB群が含まれるためエネルギーの代謝も助けてくれます。甘酒は飲むだけでなく、こうして調味料としても使用できますので、是非使ってみてください。

できごと

こんなことがありました

August 2021

実習 受け入れ

8月30日(月)から4日間、九州ルーテル学院大学 人文学部心理臨床学科より、公認心理師資格の取得を目指す4年生2名の実習を受け入れました。実習生は、2週間前からアルバイト等中止し、同居家族以外との接触を極力抑えるなど、感染対策を行っておられ、当院としても、患者様やスタッフとの接触には十分配慮した形で実施いたしました。感染対策上、病棟に入ることができず、実習生と患者様が直接接する機会は少なかったのですが、DVD教材を利用したり、心理師スタッフとのロールプレイを行う等、可能な限り、実践的な学びの機会となるよう、取り組ませていただきました。コロナ禍においても、確かな専門性を身につけた資格者の養成は重要であり、当院としてその一端を担うことができたことを、大変うれしく思います。また、学びに対する実習生の真摯な姿勢を通して、こちらも、日々の実践を振り返る機会をいただきました。当院に通われる患者様のお役に立てるよう、日々研鑽に励んでいくとともに、今後も可能な限り、実習生の受け入れ等通して、資格者の養成に貢献できればと考えております。

心理課長 公認心理師／大石 真吾



編集後記

表紙の写真は、コロナ禍の令和2年7月豪雨の際、芦北の被災地で当院のチームが熊本県のDPATとして日赤のチーム等と連携して活動した時のものです。また、巻頭の仁木理事長の写真は熊本県知事表彰授賞式で撮影されたものになります。さて、2021年は新型コロナワクチン接種が開始されたことや感染対策への全体の意識が高まったことなどで感染者数も激減し、年の後半には実習受け入れや院内衣類販売会などイベントを少しずつ再開することができ、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつあると感じました。次回の広報誌では、新型コロナ以外のことをたくさんお届けできることを広報委員一同願っております。